

1

3年間の計画

| | 目標 | 平成29年度(2017年度) | 平成30年度(2018年度) | 平成31年度(2019年度) |
|-------------------|---------------------|---|---|--|
| 保幼小中連携 中学校ブロック | 点から面でつながる ブロック連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・担当者、教科、専門部会を開き、各部会で連携など検討する。 ・月1回の連携担当者会を計画し実行する。 ・連携カリキュラムの確認、改善を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校ブロックとしての連携組織を充実させる。 ・連携カリキュラムの確認、改善を行う。 ・連携担当者以外の担当者会を学期1回行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種担当者会を定期的に行う。 ・連携カリキュラムを活用した取組を行い、検討及び集約する。 ・3年間の効果検証と、H34までの計画の立案。 |
| 確かな学力の育成 | 進んで学ぶ子の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶための準備を自分で整える習慣を身に着けるために「春日の基本」の徹底に努める。また、学びやすい環境整備やUDの授業づくりを研究する。 ・わかる楽しさを感じることでできる授業づくりを研究する。 ・本好きな子を育成する。 ・児童が学びやすいモジュール学習の計画、日課表を検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・UDの授業づくり、学びやすい教室環境整備に学校全体で組織的に取り組む。 ・「主体的・対話的な学び」の授業づくりのためにICT機器を活用したUDの授業づくりを研究していく。 ・モジュール学習の検証をし、カリキュラムと関連させていく。 ・外国語活動のカリキュラムを検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学びやすい学習環境の充実。 ・UDの考え方を中心とした授業の充実。 ・ICT機器を様々な教科や活動で活用し、子どもが主体的に学べる場の設定に役立てていく。 ・モジュール学習の定着。 ・外国語活動のカリキュラムの完成と授業の充実。 ・3年間の効果検証と、H34までの計画の立案。 |
| 豊かな人間性を育む | 自分と友だちを大切に、助け合う子の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・支援や配慮を要する子を大切に作る集団づくりや違いを認め合う取組を研究し推進していく。 ・失敗を恐れずに行動に移せる子の育成のため、キャリア教育を研究し推進する。 ・豊かな人間性を育むために、道徳の教科化に向けた、教材研究とカリキュラム作成をしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・弱い立場の子、支援を要する子が安心して学校生活を送れるよう、違いを認め合う集団づくりを進める。 ・キャリア教育の実践と研究を推進する。 ・学校、地域、家庭が連携を図り、「正しく判断し、みんなで助け合い、学び合う」子どもの育成の啓発を進める。 ・道徳カリキュラムの見直し。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の実践力の向上を目指し、人権教育・道徳教育についての研究を進める。 ・一人ひとりの違いを認め合い、すべての子どもの人権が尊重され、共に学び、共に育つことができる集団づくりを進める。 |
| 健康体力の増進 | 強い心と体の子の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力向上、運動への意識向上を目指し、授業改善や授業力向上に努める。 ・運動の楽しさや喜びを味わうための授業、取り組みを組織的に進める。 ・健康や安全についての興味関心を持てる授業を推進していく。 ・粘り強く困難にも立ち向かえる力の育成に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康について、友だちとの対話を通じて、課題の解決を目指す子を育成する。 ・生涯にわたって、健康、体力の増進に興味、関心を持てるような授業や行事を進めていく。 ・子どもの体力向上、運動への興味関心につながる行事の検討を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた、系統性のあるカリキュラムの作成。 ・体力向上や運動への興味関心が深まる行事の精選。 ・生涯にわたって、健康・体力の増進に意欲的に取り組む子の育成につながる授業、行事の検討。 |
| 支 援 教 育 の 充 実 | | | | |

2 今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
良好な結果であった。
- ②書くこと
良好な結果であった
- ③読むこと
良好な結果であった。
- ④言語事項
概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
良好な結果であった。
- ②短答式
概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

国語B

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
良好な結果であった。
- ②書くこと
良好な結果であった。
- ③読むこと
良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
良好な結果であった。
- ②記述式
良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

分析

- ・ A と B とともに、過去に比べても正答率が高くなっている。
- ・ A と B とともに、全ての項目で良好か、概ね良好な結果であった。
- ・ 全ての項目で全国平均を上回っている。
- ・ 正答率も高いが、無解答率も全国平均を上回っている。
- ・ 学力差が大きい。

○●算数●○

算数A

(領域ごと)

①数と計算

良好な結果であった。

②量と測定

概ね良好な結果であった。

③図形

概ね良好な結果であった。

④数量関係

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった。

②短答式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

算数B

(領域ごと)

①数と計算

良好な結果であった。

②量と測定

良好な結果であった。

③図形

良好な結果であった。

④数量関係

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった。

②短答式

概ね良好な結果であった。

③記述式

良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

分析

- AとBともに、全ての項目で良好か、概ね良好な結果であった。
- 全ての項目で全国平均を上回っている。
- 正答率も高いが、無解答率も全国平均を上回っている。
- 学力差が大きい。

理科

| | |
|--------|-------------|
| (領域ごと) | |
| ①物質 | 概ね良好な結果であった |
| ②エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ③生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④地球 | 良好な結果であった |
| (問題形式) | |
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |
| (無解答率) | 概ね良好な結果であった |
| (その他) | |

分析

- ・全ての項目で全国平均を上回っている。
- ・全ての項目で、良好か、概ね良好な結果であった。
- ・正答率も高いが、無解答率も全国平均を上回っている。
- ・学力差が大きい。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

- ・例年、全国平均を上回っている。その中でも、正答率だけをみるとよい結果であった。
- ・無解答率も例年より高く、全国平均よりも高くなっている。

学力上位層と学力低位層、グローイングアップ層についての分析

- ・学力上位層は自校の例年の結果より高く、全国平均を大きく上回っている。
- ・学力低位層は全国平均よりは少ないが、自校の例年の結果よりは多くなっている。

〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

(授業研究)

- ・「自己有用感の高まる授業作り」をテーマに授業研究に取り組んでいる。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて研究授業を行っている。(1年間に4学年)
- ・全ての教科を通して、話し合い活動を取り入れるようにしている。

(国語)

- ・週1回、朝学習の時間に読書を行っている。
- ・原稿用紙の書き方を低・中・高別に統一して示し、作文指導や書く単元の学習で活用している。
- ・国語のノート指導で、全クラスで日付やめあてなどの書き方を統一している。

(算数)

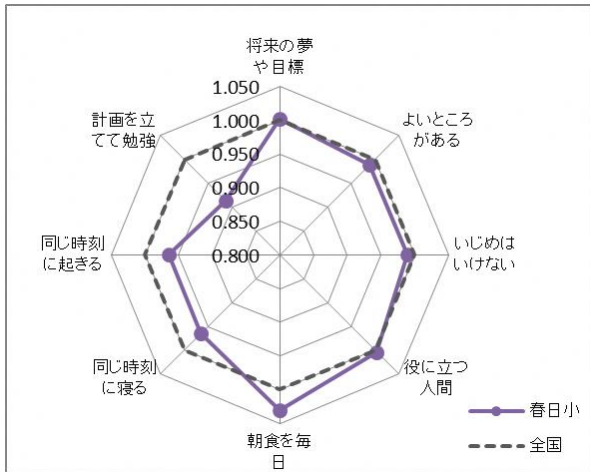
- ・基礎的な計算力を定着させるため、朝の学習で算数プリントを行う日(計算チャレンジ)を週1回設定している。また、学期ごとにデータを取り、分析を行って、苦手な部分を補えるようにしている。

(学力保障)

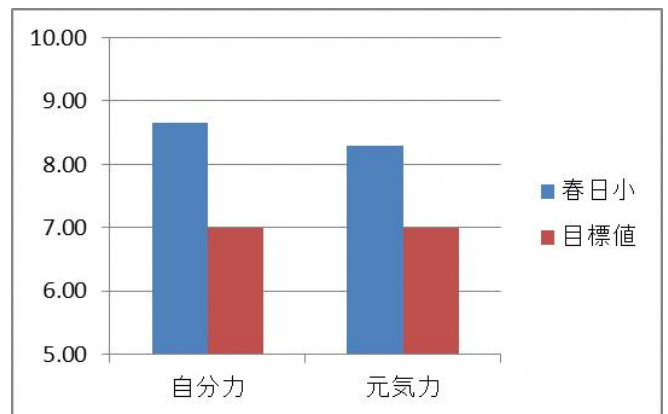
- ・教室環境を整備するとともに、1日の予定を提示することや、分かりやすい板書や授業の流れを心がけるなど、ユニバーサルデザインを導入している。
- ・学習ルールを徹底するため、「春日のスタンダード」(チャイム着席、花マルふでばこなど)を実施している。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

- 朝食を毎日食べてきている児童が全国平均より多く、朝食を食べることが大切だと多くの家庭が理解している。一方、就寝時刻や起床時刻が一定でない児童も多い。ゲームやネットなどの普及により、就寝時刻が不規則になり、起床時刻も不規則になると分析できる。
- 計画を立てて勉強する項目が全国平均に比べて低い。複数の習い事をかけもち、児童も多忙になってきていることから、計画を立てて自主学習を行う児童が減っているのではないかと推察される。
- 自尊感情や自己有用感の項目は、全国平均と同じくらいである。
- 自分力と元気力に関しては、目標値を上回っている。

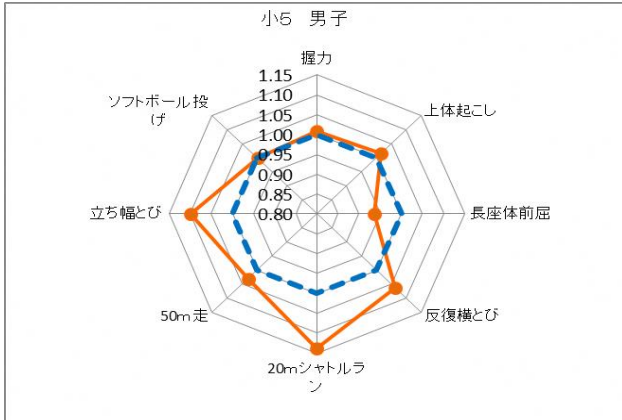
取組み

- 自尊感情や自己有用感を高めるために、今年度は「自己有用感の高まり」をテーマに研究を進めている。
- SNS やネットゲーム、動画共有サイトなどの利用の仕方について、家庭と情報共有を行い、学校と家庭の両方で正しい利用の仕方を指導している。
- 学ぶ意欲を向上させるためにも、5, 6年においても介助員や学習サポーターと協力して、個に応じたきめ細やかな指導をしていく。
- いじめの調査を続けて、いじめは絶対にいけないと知らせるとともに、実際の自分の行動を振り返らせる。
- 協力や助け合いの力が低くなっているところがあるため、学級の中で、一人ひとりが役割を持ち、それぞれが協力して行うことで学級が成り立っているということを感じさせるようにしていきたい。

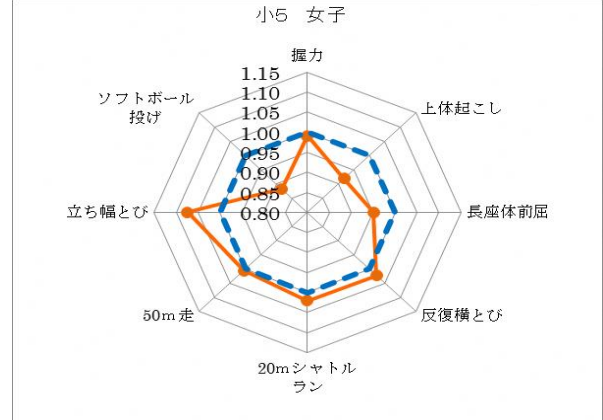
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

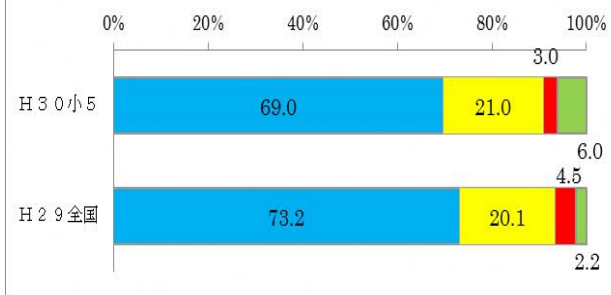
男子 (小5)



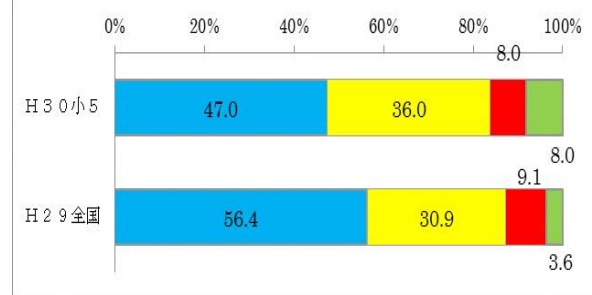
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■ 好き
 ■ やや好き
 ■ ややきらい
 ■ きらい

分析

体力テストの記録について

- 男子は全体的に全国平均以上のものが多い。特に 20mシャトルランの記録が高い。冬季のマラソン週間や体づくり運動の効果が出ているのではないかと推察される。
- 女子はソフトボール投げの記録が低い。日頃から投げる習慣が少なく、普段の遊びなどから「投」の力をつけていく必要がある。

アンケートについて

- 男女とも、全国と比べると肯定的な回答の割合が少し低い。しかし男女とも 8割~9割の児童は運動に対して肯定的な印象を持っている。女子に関しては「やや好き」の割合も高く、普段の休み時間も外で遊んでいない姿も見られることから、スポーツへの魅力を感じられていない児童もいると考えられる。

取り組み

- スポーツテストの日を設定 (4~6年生)
- 校内研修の実施
- 体育的行事を実施 (なわとび週間、マラソン週間、マラソン大会)
- 体育学習でのふりかえりカードの活用。
- 体育施設、備品、学習具の整備充実。
- 体育科授業を行いやすい環境整備
- 年間指導計画の作成